CQ12 妊娠から子宮筋腫合併妊娠の予後等について調べられた時の説明

Answer

1. 以下の事項を話す。

1) 妊娠予後は比較的良好であるが、妊娠中は切迫流産、妊娠末期の胎位異常、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、羊水量の異常、妊娠高血圧症候群、前期破水の頻度が増加する。(B)

2) 約20%の妊娠が筋腫部位に一致した疼痛を一過性（1〜2週間）に経験する。(B)

3) 分娩時には陣痛異常、異常出血、帝王切開の頻度が増加する。(B)

4) 妊娠中および帝王切開時の筋腫核出術の利益・不利益についてはまだ十分検討されていない。(C)

5) 産褥期に、筋腫変性、高度感染により子宮全摘術を行う可能性がある。(C)

解説

本邦における子宮筋腫合併妊娠の頻度は、0.45〜3.1%と報告されており、このうち20%の症例では妊娠中に筋腫が増大するとの報告がある。また、妊娠中の12.6〜28%が筋腫部位に一致した強い疼痛を伴う下腹部痛を経験する。その機序として筋腫変性が考えられており、疼痛時にはCRP上昇を伴うやすく疼痛消失後にはCRPも正常化することが多い。疼痛の持続期間は多くの場合1〜2週間程度である。

妊娠予後は比較的良好であるが、分娩過数、児体重に差はみられず、5cm以上の筋腫の限られた検討でも同様の報告がある。しかし、筋腫の存在により各種合併症の頻度は上昇し、切迫流産17.1〜25.9%、切迫早産16.3〜39.9%、前期破水7.3%、早産9.3〜20%、流産、常位胎盤早期剥離、子宮内胎児発達遅延等が報告されている。その他、血栓症、肺塞栓、子宮内胎児死亡なども頻度上昇の可能性が指摘されているが、必ずしも筋腫の因果関係については明らかではない。Coronadoらの筋腫合併妊娠2,065例と非合併妊娠4,243例を比較した検討では、筋腫合併例での各種合併症のオッズ比は1st trimesterでの出血1.82、前置胎盤1.76、常位胎盤早期剥離3.87、羊水過少症1.80、羊水過多症2.44、妊娠高血圧症候群1.50、前期破水1.79、凝血異常1.90、分娩時大量出血1.58、骨盤位3.98、帝王切開6.39と報告されている。筋腫と胎児が接している場合には、流産、早産、常位胎盤早期剥離、産後出血量が増すとの報告もある。

諸症状は筋腫が5cm以上あるか200cm以上に達するか、筋腫異常、産道狭窄が起こりやすくなり帝王切開の頻度は高くなり、帝王切開は20.5〜58%の頻度で実施されている。また、5cm以上の筋腫では特に陣痛発来前の帝王切開の危険性が増す。一方、Koikeらの筋腫合併102例中76例（75%）が最大径7.4±4.0cmに経済分離を試み、筋腫群76例と筋腫のない対照群115例との間に帝王切開率（17% vs. 13%）が、分娩に膣鏡分離した妊娠群間の平均出皿量（397±396ml vs. 349±273ml）に有意差はなかったが、500ml以上の出血量を示した妊ままは筋腫群で多くあった。
たとっている（経絡群：32% vs. 17%，帝王切開群：54% vs. 33%）。
妊娠中に例外的に筋膜核出術が行われることがある[1(3)14]が現状では利益・不利益についてよく検討されておらず、標準的治療にはなっていない。その適応として、1)出血、疼痛などの切迫流産傾向のとれないもの、2)急激な腫瘍の増大、あるいは変性を認めるもの、3)過去に子宮筋腫が原因と考えられる流産既往のあるもの、4)子宮筋腫の存在が妊娠遠征の障害となると判断されるもの、5)筋腫壊撲転、血管断裂、変性による疼痛を繰り返すなどの急性症状のある等が推奨されている[1(3)14]。妊娠中の子宮筋腫核出術の最大のメリットは87%の患者において術前にみられた筋腫に伴う症状が消失することにあるが、保存的療法と手術療法の優劣に関しては今後randomized studyが必要である。帝王切開時の筋腫核出術は勧められないとするのが一般的である、「出血量増大をまねきやすい」のが理由なので、比較的容易に摘出でき出血量増大につながらない筋腫に関してはそのかぎりではない。

文献
1) 木川源則：妊娠に合併した子宮筋腫とその手術適応、産婦人 1991; 49: 895—898 (III)
2) 浮田昌彦：子宮筋腫合併妊娠の産科、産婦人 1989; 47: 433—437 (III)
3) 高見英世：妊娠と子宮筋腫、産婦人 1998; 59: 183—187 (III)
4) 杉本充弘、中川潤子：子宮筋腫、産婦人 2001; 38: 590—596 (III)
9) 久保武、重光健彦、沖明典：妊娠と子宮筋腫の保存療法、産婦人実践 1992; 41: 1903—1907 (III)
10) 杉本充弘、中川潤子：妊娠合併子宮筋腫の取り扱い、Hormone Frontier in Gynecology 2003; 10: 187—193 (III)
13) 平松祐司、工藤尚文：妊娠に合併した子宮筋腫に対する手術療法、産婦人 1998; 76: 13—18 (III)
14) 平松祐司、増山佳子、水谷靖子、洲崎信子、工藤尚文：妊娠症、および帝王切開時の子宮筋腫核出術。産婦人科学会誌 2002; 15: 55—64 (III)
15) 平松祐司：子宮筋腫合併妊娠の管理、日産婦誌 2007 投稿中 (III)